東由利村報

No.129　1968・4・1

発行　秋田県東由利村役場　印刷　KK本間印刷所

毎月1日発行（1部8円）　昭和42年7月21日第3種郵便物認可

春の火災予防

ことしも火災のシーズンがやってきた。これまでの例では、出火原因の大半が家庭の日常生活での、ちょっとした不注意から大事にいたっている。

その趣意で、春の無火災強調週間が、4月10日から16日までに行われるが、週間だけのことでなく、その日その日を、家族が誓って防止して行く心がまえが必要だ。

ことに、◎冬がこいを除去しない家庭は早く。◎子どもの火あそびを予防。◎タバコのすいがらを所かまわず投げ捨てない。◎寝る前にはもういちど火の点検◎山菜とりなどの入山には火をそまつにしない。

火入れには許可が

林野火災もまた春には集中的に多い。山火事は、出火するとなかなか消火が困難である。山への火入れは許可が必要であり火災にいたらぬ配慮が求められている

助役選任ふくむ23案を

要望事項　冬の足確保に雪上車など

原案可決

▽▽▽▽▽▽▽▽

昭和43年第一回定例村議会は、3月12日に招集され二三議案を審議、43年度一般会計予算には総務委員会を除く三つの常任委員会が要望事項を付し、それぞれ原案どうりに可決、21日夕刻10日間にわたる会議を終えた。

△△△△△△△△

議会は12日に村長の施政方針説明、つづいて教育委員長の教育方針説明、これに対する議員の一般質問で開議した。

43年度一般会計予算（一億七千百五十六万円）。国民健康保険事業勘定特別会計予算（四千八百十四万五千円）。黒淵診療所特別会計予算（七十二万五千円）。簡易水道事業特別会計予算（百四万二千円）。玉米財産区特別会計予算（四十七万五千円）の五件は16日総務委員会（委員長嶽石伊佐武郎氏）に付託し、関係常任委員会が連合審査した。

その結果、審査の過程で出た要望事項を各常任委員長から報告させ、予算案五件は適当であり原案どうりに可決すべきとの結論に達した。

要望事項

高齢者医療費一般会計で補給を

教育民生委員会（委員長伊東与吉氏）。学校完全給食は児童生徒の身心向上にプラスするところが少なくない。

速やかに実施されるように望む。② 老人福祉向上の一環に、八〇歳以上の高齢者の医療費につき全額給付のため、三割分（国保七割給付の残額）を一般会計予算から補給されるよう配慮を望む。

修路夫採用は人柄みて決めよ

土木委員会（委員長佐藤謙吉氏）。冬期ブルの除雪には今後、天候と時期を考慮されたい。また雪上車の購入を検討ねがう。② 道路工夫の採用は、人柄を十分に調査して砂利検収、道路補修上など意義あらしめるように。③ 消雪後ただちに村内道路42年度工事の進捗ぶりを調査して、43年度に資したい。

多収穫競作は周到な計画で

産業経済委員会（委員長小松慎一氏）。水稲の多収穫集団競作につき、一集団一団地から複数の参加には検討を加えるべきである。また参加単位が五㌶（五町歩）では山間部落に無理があり、地区条件を考慮した実施計画を速やかにし、増産意欲の向上につとめられたい。

② 小規模土地基盤整備事業は向田地域のみであるが、その他の地域にも指導されたい。

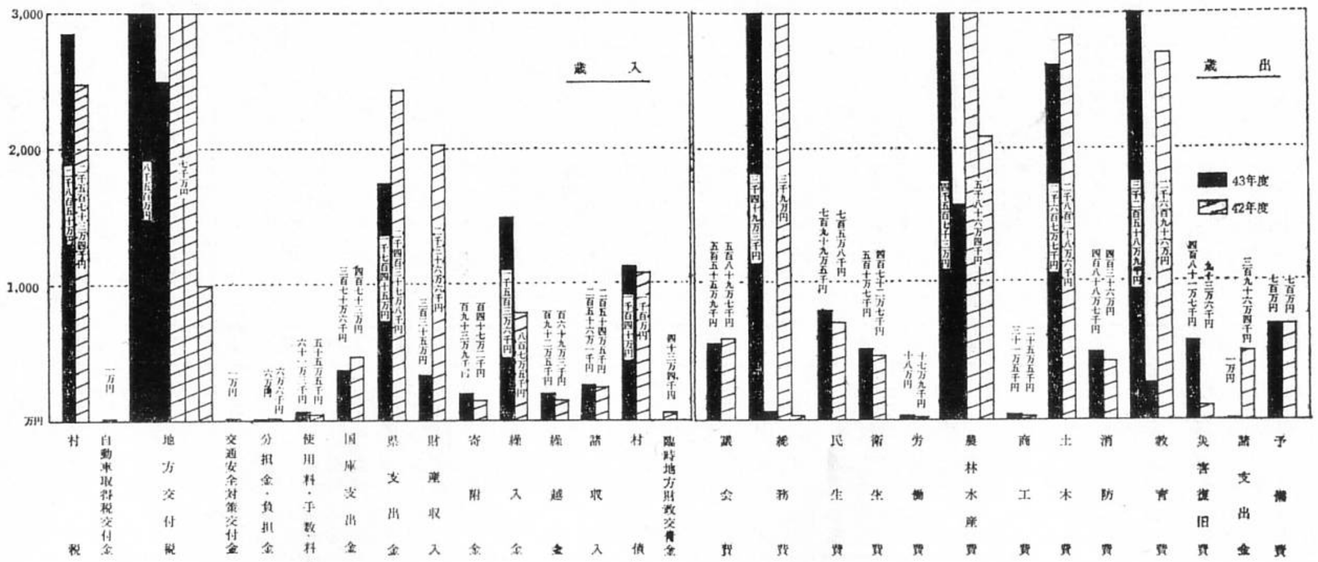
③ 鯉の稚魚放流は漁業権の問題もあり高瀬川だけでなく広く村民のために配慮を望む。

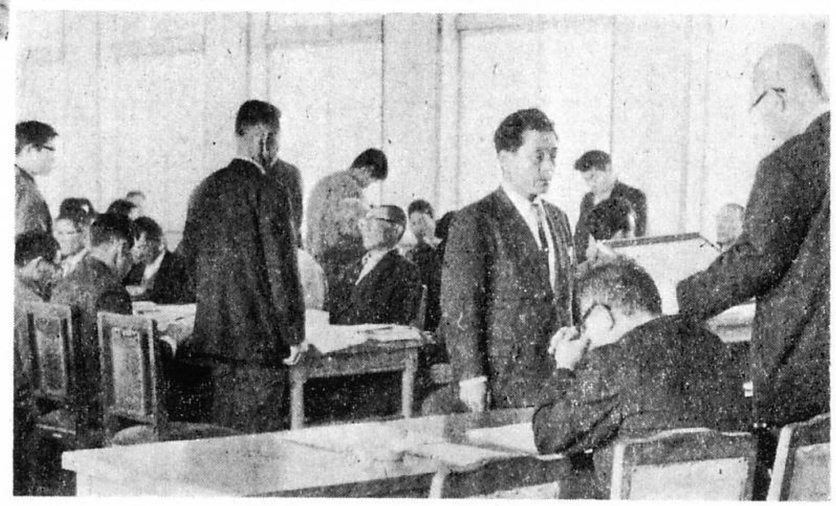
参院選挙の標語募集

清く明るく正しい選挙が、民主主義、議会政治の根底であるが、これを広めるために標語を募集している。

締切は4月20日で、一句をハガキに書いて、東京都千代田区平河町2の6。明るく正しい選挙推進全国協議会あてに送られたい。

43年度一般会計予算グラフ（前年度との比較）





村税3年連続完納の偉業

意欲に応える行政を約束

40、41年度に続き42年度もまた県民税と、村民税、固定資産税など一般村税、国民健康保険税が3月23日完納なった

村長はこれに対し〝税金は完納するのがあたりまえ、言ってしまえばそれまでだが、その納税者の意欲に、どう行政が応えて行くかが本来的な意義だ〟とのあいさつを寄せた【写真】上、最後の完納組合章をはる税務課長。右、納期内完納表彰をうける一九組合代表（宿）小野氏。

▶村税は42年度も完納された、これで三年連続の偉業が果されたわけである。

村には、納税組合六六があり全村くまなく組織されている。

このうち、もっとも至難である納期内完納が一九組合でその努力は高く評価されるべきである。

つぎに一〇月末までの問に納期が経過した納税は一〇月末まで↘

↙に、二月までのそれを二月末までにと、それぞれ指定納期を定めてこれに達したのが四四組合。

また、いずれの納期をも失して、三月に納めた年度内完納と呼ぶスベリ込み型が三組合であった。

完納三ケ年の足どりは、任期満了による本村農業委員会委員の選挙期日などを定める会議を開き、選挙の告示は4月20日、投票は村内七カ所の各小学校を投票所にあてて4月27日午前7時から午後6時までに行なう。

また、開票は同日午後7時から役場会議室で行なわれる。

農業委員会は、農地等の利用関係の調整と自作農の創設維持や交換分合に附随する事件を処理するなどして、農業生産力の発展と農業経営の合理化をはかって、農民の地位の向上をめざすのが主なしごとである。

のなかで、特記しなければならないのは、完納初年度にはスベリ込み型四八組合と、かろうじて成されたのに反し、納期内完納が初年度三対42年度一九組合と充実しつつある。

□あいさつ□

村長　小松栄男

三ケ年連続して税金完納が達せられたが、この成積があげられるには、それだけの努力がはらわれた歴史があり深く敬意を表する。

しかし問題は、納税者たる村民の意欲がなければ果されないことである。税は、自然に納められるべきであり、また、納められた税は、その貴重さを体得した納税者への還元が約束されねばならない。

この、ごくあたりまえのことが人生では至難であり、それゆえに、われわれは心を一つにして事に対処して行く必要が生まれるのである。

示された納税意欲を、さらに五年一〇年と伸ばされるようお願いすると共に、おろそかにしない行政で、期待に応えるようにがんばります。

農民の地位向上がしごと

農委選挙　4月27日に

3月30日、本村選挙管理委員会（委員長小笠原武一）では、任期満了による本村農業委員会委員の選挙期日などを定める会議を開き、選挙の告示は4月20日、投票は村内七カ所の各小学校を投票所にあてて4月27日午前7時から午後6時までに行なう。

また、開票は同日午後7時から役場会議室で行なわれる。

農業委員会は、農地等の利用関係の調整と自作農の創設維持や交換分合に附随する事件を処理するなどして、農業生産力の発展と農業経営の合理化をはかって、農民の地位の向上をめざすのが主なしごとである。

したがってこの選挙の選挙権、被選挙権は、年令20歳以上で①一〇㌃以上の農地につき耕作業務を営んでいる者と②その同居の親族または配偶者で、農耕に従事していることが条件となっているなど特色がある。

この審査を通過して確定した3月31日現在の有権者数は男一、八二二。女一、九三四計三、七五六名である。

選挙される本村の委員定数は一〇名で、これは村の農地面積や農家戸数の規模により定められている。

このほか村内農業団体や学識経験者などからの選任委員を加え一五名で構成される。

巡査部長らかわる

▽法務局東由利出張所長。
新、村田利弘氏（大曲から）
旧、海沼吉栄氏（十和田町へ）
▽東由利巡査部長派出所。
新、吉田堅治氏（大内村から）
旧、鷹野忠嗣氏（退職）
▽大琴巡査駐在所。
新、伊藤尚文氏（本荘署）
旧、菅　忠雄氏（能代署）
▽東北電力下郷出張所。
新、成田庄五郎氏（道川から）
旧、金子久治郎氏（矢島へ）

村税完納順位表

順位	組合名	完納月日	区分
1	坂照	42、10、31	特納
2	沢	42、11、30	特納
2	茂倉	同上	特納
2	宿	同上	特納
5	カの沢	43、1、11	特納
6	奥十二前	43、1、19	特納
7	蔵	43、1、20	特納
8	高屋	43、1、22	特納
8	畑村	同上	特納
10	向田	43、1、23	特納
10	中沢	同上	指納
12	宮の前	43、1、24	指納
13	の	43、1、25	指納
13	野島	同上	指納
13	新田	同上	指納
16	須処	43、1、26	特納
16	萩郷	同上	特納
16	岩沢	同上	特納
19	久保館	43、1、29	指納
19	寺田	同上	指納
19	黒沢	同上	指納
22	袖山	43、1、30	指納
22	八町	同上	指納
22	祝日沢	同上	指納
22	横渡	同上	指納
22	桂台	同上	指納
27	地沢の	43、1、31	指納
27	黒淵下	同上	指納
27	智鶴	同上	指納
27	泡淵者	同上	指納
27	高屋の	同上	指納
27	時山	同上	指納
27	石高	同上	指納
27	下路	同上	指納
27	五保	同上	指納
27	山崎	同上	指納
27	板戸	同上	指納
27	新沢	同上	指納
27	館田	同上	指納
27	須田	同上	指納
27	新町	同上	指納
27	横路	同上	指納
27	上通	同上	指納
27	中通	同上	指納
27	下通	同上	指納
27	湯野	同上	指納
27	上里	同上	指納
27	蔵田	同上	指納
27	小倉	同上	指納
27	高村	同上	指納
27	大第2	同上	指納
27	大第3	同上	指納
27	舟木	同上	指納
27	土沢	同上	指納
27	下吹	同上	指納
27	大川	同上	指納
27	大第1	同上	指納
27	田台	同上	指納
27	松代	同上	指納
27	下柴	同上	指納
27	館屋	同上	指納
27	宇西	同上	指納
27	家坂	同上	指納
27	杉下	同上	指納
56	森	43、2、19	指納
57	下	43、2、23	指納
58	沼	43、2、24	指納
59	の	43、2、26	指納
60	戸	43、2、27	指納
61	小	43、2、28	指納
61	戸	同上	指納
63	沼	43、2、29	指納
65	新郷	同上	指納
66	杉	43、3、6	指納
		43、3、23	指納

凡例　納＝納期内完納組合。指＝指定納期内完納組合。年＝年度末完納組合。特＝特別報償金交付組合

昭和42年7月21日第3種郵便物認可

東由利村報

昭和43年4月1日　第129号

村有ブルドーザーを賃貸し
後町道路など村道に議決

▼林業構造改善事業促進対策審議会条例を制定。

林構事業の指定・計画樹立と実施につき調査審議する村長の諮問機関であり、森林組合ほか農林業関係団体。林業従事者。農林業関係の青年、婦人組織などの各代表者と学識経験者から、村長が任命した委員一〇名以内で組織し、任期は二年である。

▼国民年金印紙購入基金の設置と管理条例。

被保険者の利便増進のため四十万円の基金を設けた。

伊東新助役

▼村が連絡用に設置した電話を、農村集団自動電話の架設にともない、連絡所がなくても便利がはかれるので設置場所の居住者に経費は譲受人もちで譲渡する。新田連絡所（小野作右工門）ほか八個。

▼村有ブルドーザー使用料徴収条例。

これは村の11トンクラスのブルを使用に供しようとするもので、使用料は、一アワーあたり、運転手、燃料を村負担のとき二、四〇〇円。使用者が燃料を負担するとき一、八〇〇円。

使用者が運転手を負担するとき一、九〇〇円。

使用者が燃料と運転手を負担するとき一、三〇〇円。

（注）一アワーとは、ブルドーザーに装備されている作業量を表示する計器の目盛りで負荷の大小により伸縮があるが、約一時間あたりの可動量をいう。

▼村道認定。①石濱線。起点法内字奥倉沢。経過地。法内字片倉。終点、法内字石滝。延長二、〇〇〇㍍、幅員二・五〇㍍。

これは法内字上里うらの〝遠山独開居士〟との石碑がある二叉路を起点にテレビ塔までの路線。②後町線。起点県道老方沼館線との接点。経過地、老方字後田。終点、村道老方線。延長七〇〇㍍、幅員三・六〇㍍。

これは、県道（小松鉄太郎氏宅角（から後町を経て左折旧鉄道あとを通って役場まで。

▼財政調整基金条例の一部改正。

村財政の健全化を意図して長期にわたる財源の調整を行なうために、財政基金が設けられている（昭三九、三）。

この運用規程に、経済事情の変動等で財源がいちじるしく不足した場合には、これをうめる財源に充てる。との項を加えた。

▼村職員定数条例の一部改正

これまでの村職員定数は、議会一、村長三八、教育委員会一六（学校用務員一三をふくむ）、農業委員会二の計五七名である。

これを二名増に改正。新年度には、さしあたり一名の保健婦設置がある。

▼助役選任につき同意を求める。蔵字蔵百二、伊東利雄（大正3、10、20生）。略歴昭37、1、1から経済課長42、11、1から住民課長

▼固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求める

同委員会委員長　長谷山誠一郎は、3月31日で任期満了となるため、再任する。

老方字老方八八、大正2、11、18生。

郷土史夜話 ⑫
〝館〟の規模と戦闘員

前年12月号のこの欄で水上館のことを取上げたところ、ある読者氏いわく〝私も水上館を見たが規模が小さくて……〟といささかがっかりされた様子だった。

そこで館の大小を問題にすると、当時の合戦の規模が問題になる。

矢田挿雲の「太閤記」の中に、「戦国時代の合戦の場合の軍勢は所領1万石につき250人の動員能力が限界だ」という。しかもこの人数は、旗持ちや兵糧輸送などを受けもつ雑兵小者にいたる者を全部含めた数字である。

この数字をもとにして算出すると、10万石で2千500人100万石で2万5千人、逆に1千石にすると25人、100石にすると2・5人ということになる。

由利十二頭時代の確実な所領は不明であるが、後世の資料から推定すると玉米氏は1千石、下村氏は600石程度でなかったかと考えられるので、これから先の数字で割出すと15〜25人となり、いささかおまけをつけても30人位が精一杯だったろう。つまり兵隊ゴッコに本当の刀を持たせたようなものと考えると話しが早いかもしれない。

玉米氏の米本館、下村氏の岩館（元館）はいずれも平事の居館で一応要害の地が選ばれているが、いざ合戦となると、館の規模が大きく、しかも城門なども多くなるから20人や30人程度の人数の防御には不向きで、したがって水上館・養田館・根城館など小人数でも守りやすい、小さい館に籠ることになる。

合戦という言葉から何百何千人もの大部隊どうしの戦闘というイメージが浮かぶが、由利十二頭といっても所詮小土豪にすぎないのだから、戦闘員との関係から館の規模も小さくならざるを得なかったわけである。

「由利太平記」などには先陣何百人、本陣何百人などと書かれているが、私は人数の単位を1ケタ少なく読むことにしており、事実は当らずとも遠からずでなかったかと考えている。

【正】

学校用地購入費を計上
補正予算

方向づけ　小規模区画整理に補助

42年度一般会計補正予算

千三百二十一万円を追加して総額を一億九千六百二十五万五千円とする。

追加予算の主な使途は、本荘高校下郷用地購入費、百三十七万円。

▽除雪用経費百十四万二千円。▽庁用事務機器、会議用いす等備品費四十九万円。▽寄宿舎居住費補助三十四万円。▽蔵小学校用教員住宅建築費追加十九万九千円。▽国民年金印紙購入基金に四十万円の繰出し。▽区画整理調査設計補助二十四万五千円（向田、松沢地内）。

蔵・新田・島地区でいどの規模の事業には県補助があるが、小規模事業にはない。そこで今後の方向づけとして、村費補助により啓発する。

42年度国民健康保険特別会計補正予算

四十八万八千円を減額し、総額を四千百六十七万七千円とする。これは、療養給付費などの余剰金を減額補正した。

黒淵診療所特別会計補正予算

十七万二千円を減じ総額を七十四万八千円とする。医療用材料費などの減額補正。

婦人会ことしは政治意識たかめる

本村婦人会は3月26日役場に一二〇名が出席して総会を開き、役員改選、43年度事業として婦人集会・講演会・幹部講習会を、それぞれ時期をみて行なうと決定した。

また、ことしの重点目標につぎの三点をかかげて努力すると誓いあうほか、民舞講習会の成果を披露して散会した。

①しあわせな社会をつくるために政治に対する関心をたかめよう。②記帳と予算生活をとうして家庭経済の健全化につとめよう。③家庭と社会の環境を明るくし青少年の健全育成につとめよう。

会長＝阿部マサエ。副会長佐藤真。梅津ミチ。支部長＝住吉、長谷山タツヨ。館合、小松当子。老方、小松イワオ蔵、田代フサミ。法内、佐藤イトヨ。宿、梅津ミチ。袖山畠山スミヨ。

【写真】民舞披露する会員

南米東北村で　百町歩農業の夢を
樹木の生育速度

わが国の四倍

移住といえばブラジルを想い出すほど、ブラジルは日本人移住者の受入国として知られている。3月6日、海外移住事業団秋田県事務所による南米に東北村をつくる説明会が、役場に村内各農業団体ら関係者を集めて開かれた。話題の南米東北村は、パラグアイ国に建設するもので営農主体は内牛におくという。

また冬には霜が降りる程度でしのぎやすく、雨量は作物の成育に絶好である。したがって樹木の生育速度は、わが国の二〜四倍といわれリンゴにはちょっと暖かすぎるもののミカン・桃・ナシ・胡桃・茶などは育つという。

□…ここでの営農のすすめ方は、米・鶏その他の自給体制をできるだけ早く確立して出費をおさえる一方、肉牛を増殖し世界的な〝肉きん〟に応えながら、しだいに牧場経営がなりたつよう計画されている。

□…本村からのブラジル移住は昭和八年の佐々木力蔵氏一家六人をはじめ、記憶に新しいところでは三三年の小野佐久次氏一家五人と菊地真治氏がいる。また最近では三五年の大台開拓部落の阿部久造氏ら四世帯二二人がいる。

□…小野佐久次氏からの手紙によると、同氏は目下アマゾン流域のトメスで独立してピメンタ（こしょう）三千本を作っており一両年中には五千本台に乗せたいと伝えている（注）ピメンタは、四年目から収穫が得られる永年作物で五千本ていどの作付で安定生活が確保できる規模といわれている。

□…パラグアイは日本人に対し親愛感を抱っており、面積は、わが国より一割方大きいのに反し、人口わずか百八十二万人に過ぎず、これからの発展がまたれている若い国である。

南米東北村は、ブラジル国境の世界一の水量をほこるイグアスの滝に近い国際道路沿線に、約八万七千㌶のイグアス移住地を建設して希望者を送りこみ、イグアスの肥えた土地に国内では果たせない〝百町歩農業〟の夢を満たそうというものである。

□…イグアスの気候は、夏は最高三一〜三三度に達し昼間の屋外は暑い。しかし屋内は涼しく夏でも夜には毛布をかかせない。

公民館長に阿部寅静氏

本村教育委員会は、四月一日付で昨年七月以来、教育長が兼任していた本村公民館長に、現教育委員の阿部寅静氏（五三）を充てると発令した。

市郡競技会で佐々木君優勝

このたび本荘市由利郡建設技能協議会主催の第四回技能競技会建具の部で、みごと本村宿字大琴の佐々木日出夫君が優勝した。課題は、二時間三〇分で障子一枚を仕上げるもので日頃の腕を競った。

この種目は第一回以来連続して本村勢が一位の座を占めており、これは、村商工会の応援で年間二〜三回の講習会を開くなどの成果だと関係者は語っている。（写真は佐々木君）

自動二輪試験日

4月の自動二輪車の免許試験日は25日本荘試験場で行なわれる。

この申込みは20日までとなっているが、一五〇名に達し次第、20日を待たずに締切られる。【注】冬期の試験場である秋田の予定が変更された。

教職員異動

【転入】▼住吉小（西目小）◎小野安治。（任用）豊沢久美子。（講師）田口睦子。（講師）榎本恵子。▼玉米小（鶴舞小）田口二郎。（老方小）菊地ケイ。▼老方小（宿小）中津川愛。（任用）今野賢一▼蔵小（住吉小）◎山田礼智（玉米小）畑山栄子。▼法内小（任用）工藤則子。（復職）佐藤市右工門。▼宿小（子吉小）藤本光喜。（上川大内小）奥山カネヨ。▼玉米中（玉米小）斎藤治三郎。▼下郷中（西目中）武田寿夫。（仁賀保中）佐藤武三。（金浦小）和田長治。

【転出】▼（住吉小）平沢小阿部良子。（老方小）男鹿市鹿山小＝佐々木鉄雄。男鹿市五里合小＝阿部逸子。▼（蔵小）院内小＝◎佐々木武。象潟小森田比呂子。▼（宿小）仁賀保中＝田口恭子。▼（玉米中）上浜中＝中山精一。矢島中＝榎本繁雄。▼（下郷中）下川大内中＝遠藤与吉。金浦中＝土倉弘夫。

【注】（　）内は前任校。◎印は校長。

本荘高校下郷分校

【転入】芦田寿（大曲農定）今愛子（矢島高定）。小野玲子（新採用）。

【転出】小野崎一夫（本高定）斎藤輝子（花岡工定）。斎藤伊都子（能代北全）。

村職員の異動

サービスの向上めざして昨年から半数をこえる配置がえをしたが、四月一日付の職務分担は次表のとおりである。

役場職務分担表

議会事務局長（兼農地主事）		中津川俊雄
出納室	会計	千葉アイ子
	出納員	小野　進
総務課	課長	小松耕之助
	庶務	小松正昭
	〃	小松厚子
	兼財務	小松与一郎
	財務	菅原賢治
	広報	小松丈介
	統計	寅田敏雄
	消防（兼住民課衛生係）	樽野忠義
税務課	課長	小野丹左衛門
	税務	小松巌
	〃	遠藤正
	〃	八島保
	〃	畠山正美
	地籍	阿部力
	〃	佐藤貢
	〃	小松宣
住民課	課長	阿部忠蔵
	戸籍住民登録	菊地貞雄
	〃	高橋斐一
	厚生	森川昭児
	衛生	小松サダミ
	年金	志村惣一郎
	〃	高橋義勝
	国保	遠藤忠二郎
	〃	阿部弘章
経済課	課長	梅津典男
	勧業	佐藤文十郎
	畜産	森照男
	〃	佐藤孝一郎
	林業	嶽石文男
	〃	遠藤信一
	土木	八島耕二郎
	〃	小松正志
	〃	伊東正志
	農構	畑山良一
	〃	中西蔵之助
農業委員会		渡辺勝男
教育委員会	教育長	佐々木君三
	総務	小松久男
	学務	柏原慶子
	社教	青木和雄

孝節労務者

エリートか便利屋か

老方　渡辺幸夫

孝節労務者となって近代産業の花形といわれる自動車工場に数年働き、一歩の無駄足も許されぬコンベアの流れ作業を通じて思うのは、その職制の面白さである。工程別に作業者が配され、作業員数名に対して班長がおり三〜四の班を単位に組長がいる。これら班長組長なる者は、人間的にすぐれ仕事も出来、欠勤の少ないのが任命されているが、彼らにはエリート意識など全くないのです。一日百数十台の生産を要する部品補給から部下の食券、通勤定期の購入、健康を害した者を診療所への手続き、はては給料の問題とプライベートなことまで相談相手になるなど、作業者が作業に専念できるための便利屋となっているのです。その間少しのヒマがあれば作業治具の改善をしたり、会社上役との会議に出席したりというスーパーマン以上の活躍であり、それがあたりまえと考えているのです。ややもすれば何か役にありつけばエリート意識の先走る今日、誠に面白いことでした。

そして彼らは言うのです。勢いっぱい働き会社のために一台でも多く車を造って、しかるべき後に報酬をいただくと――。

これでこそ二十年間にして一人当り生産台数が八倍にも伸びたことであろう。それにひきかえ我々の農村はどうであろう百年たってやっと二倍、産業の特殊性を差し引いても考えさせられるように思われる。こんなことを敏感に肌で感じた若者が次々と村を去って行くこのごろ〝我々は村から得ることだけを考え、村のために何かを為す〟ことをしなかった。あらためて恥入るべきではなかろうか。